共同研究奨励金グループ活動報告書

「多文化共生社会の創出と日本社会の変容
―― 神奈川県横浜地域を中心に ――」

研究活動報告

1．横浜研究会（横倉，永野，後藤（政），平井，寺沢，福嶌，富谷，尹（亭），後藤（晃），兼子，大里，孫，阿部）

2．研究会・シンポジウムの開催

（1）研究会

○第1回研究会　05年7月6日　基本科目共同研究室出席―横倉，永野，後藤（政），阿部，秋の国際シンポジウムの企画について

○第2回研究会　05年8月30，31日　京急上大岡「ウイリング横浜」福祉保健研修交流センター出席―横倉，永野，阿部，後藤（政），兼子，富谷，平井，福嶌，尹（亭）

8月30日　午後1時30分～午後5時　○05年3月末のシンポ（拡大研究会）の反省　○今年度の国際シンポの検討（担当―後藤（政），阿部）　○海外調査について　○予算配分について

8月31日　午前9時～12時

研究報告1．平井（横浜における外国籍住民の地域的分布）

研究報告2．福嶌（多文化理解教育と中国帰国者）

（2）第2回国際シンポジウム

05年11月26，27日　KUポートスクエアー　各報告のタイトル・発表者・内容については，第1回（05年3月29，30日）の分とあわせて，本「所報」に掲載しているので，参照されたい。

3．研究活動

研究会及びその一環としての国際シンポジウム（拡大研究会として位置づけている）については上記の通りであるが，研究会としての独自の調査研究は次の通りである。

（1）05年9月15日　9時30分～16時

横倉，尹（亭）が神奈川朝鮮学校で民族教育についてヒアリング，授業参観を行った（なお，これは横浜市国際交流協会主催行事に参加する形で行った）。

（2）海外調査

①フィリピン調査　06年2月17～23日　横倉，永野，後藤（政），富谷が行った。

②台湾調査　06年1月下旬及び2月中旬　2回に分れて，平井，尹（亭）が行った。

本研究奨励金にもとずく研究は05年度をもって終了する。研究活動及びシンポジウム（拡大研究会）によって，グローバル化の一環としての外国籍住民の増加に伴う日本社会の変容及び彼らの生活・就労などの諸問題について認識を深めることができた。その成果については2月から3月にかけて執筆の学長宛の報告書にまとめ，研究会で発表する予定である。

「加齢による認知機能変化の評価と，環境設計に関する研究」
―― サクセスフル・エイジングのために ――

研究内容：

1　高齢者の認知機能の解明と評価基準の確立

　　検索作業

　　色彩環境

　　歩行等モビリティーの改善

2　高齢者の生活環境ニーズ調査

採択金額：3,500千円

研究期間：２年間（平成16年度・17年度）

研究メンバー：

研究代表者	和氣洋美	外国語学部　教授	人文学研究所
研究分担者	三星宗雄	外国語学部　教授	人文学研究所
	山下昭子	外国語学部　教授	人文学研究所
	掘野定雄	工学部　　助教授	工学研究所
	森みどり	工学部　　助手	工学研究所
	後藤智範	理学部　　教授	総合理学研究所
	張　善俊	理学部　　助教授	総合理学研究所

研究の進捗状況：

1　研究装置　高速視覚刺激発生装置（Visage）

　　駆動実行プログラム完成

　　触図提示装置

　　駆動実行プログラム完成

2　低視力シミュレーション下での行動評価

　昨年度，オクルージョン・ホイル装着により視力を段階的に低下させ，視力低下に伴う，調理・買い物・衣服の着脱など日常生活における行動の困難度についての実験調査を行った。本年度は分析を行い，論文を作成した。

3　高齢視覚障害者のQOLに関する調査研究

　加齢による心身機能低下に起因し，加齢に伴う視覚障害の発症率は高く，それに起因してQOL

(Quality of Life) の低下が起こる可能性は大きいと考えられる。本調査では，視覚に何らかの障害が生じ眼科外来に通院する複数の高齢患者に対し，SF-36，PGCモラールスケールなど，既に学会で認知されている数種類の調査票を用いて，アンケートを行った。調査は現在進行中である。収集されたアンケートに対する回答は，今後「Amos」により統計的に分析され，加齢と視覚障害との関係，および加齢性視覚障害と日常行動特性および生活満足感や幸福感との関係について明らかにされる予定である。

2　平成17年度第１回研究会

開催日：2005年６月６日（月）13：30～21：00　1114心理学実験室

出席者：三星宗雄，山下昭子，堀野定雄，森みどり，和氣洋美
後藤智範（公務欠席），張　善俊（在外研究）

内　容：研究代表者（和氣）より，研究テーマの再確認，予算執行報告，
購入装置のデモンストレーション

研究報告：

（１）三星宗雄
反応時間を用いたカラーバレーボールの評価について（Ⅰ・Ⅱ）
Ⅰ　ボールの回転方向の検出
Ⅱ　飛来速度と回転報告検出の関係

（２）森みどり
高齢者対応の携帯電話の開発に関する研究

（３）堀野定雄
鎌倉ユニバーサル・デザイン化計画の推進に関する研究

（４）和氣洋美
二重課題の視機能指標としての利用可能性に関する研究　Visage使用
オクルージョン・ホイルによる低視力シミュレーション下での日常行動の評価
閉眼時描画縮小現象
QOL のための調査検討　ADL, CAT など調査票と調査項目の検討について

3　その他，メール会議多数回

4　今後の活動予定　平成18年度第２回研究会開催予定　３月中旬

（和氣洋美）

2005年度講演会

	月日	氏名	テーマ	所属
1	6/3 (金)	朱　　建栄	2005「反日」を考える	東洋学園大学教授
2	7/2 (土)	レイナルド・C・イレート	Pasyon &Revolution and Philippine Studies from 1980 to the Present	国立シンガポール大学教授
3	7/3 (日)	鈴木　健	在日フィリピン人女性のエンパワメント	カラカサン　―― 移住女性のためのエンパワメントセンター ――
4	7/3 (日)	ベリンダ・A・アキノ	The International Conference on Philippine Studies Series:A Brief History and Commentary.	ハワイ大学フィリピン研究センター所長
5	8/30 (火)	福元雄二郎	在日、日系ラテンアメリカ人と多文化共生	神奈川大学附属高等、中学校教諭
6	12/7 (水)	松井貴子	フォンタネージの自然形象	宇都宮大学教授
7	12/9 (金)	小林信行	環境倫理学と生命倫理学の双曲線	明治大学教授